

「神奈川へ出張し、返事が遅れた…」

勝海舟 自筆の手紙

幕末の志士・坂本龍馬が師事した勝海舟と神奈川を結ぶ自筆の手紙が、見つかった。歴

家も「貴重な史料」と評価する。

「神奈川表へ罷」と筆で和紙に書かれた手紙は、1862(文久2)年4月4日付。

「麟太郎」の名前で、40歳の勝が福井藩主の松平春嶽の家来あてに出した。「神奈川へ出張し、返事が遅れた」との内容だ。

文中に「函館表之御船にて外国行之御用」



勝海舟の手紙と山本博士

横浜の歴史愛好家 山本さん京都で入手

とあるのは、幕府が主導した「健順丸」で勝

が艦長として香港やジャワへ渡航する計画だった。2年前に咸臨丸で渡米した勝は、海軍と西洋砲術の専門家

になったが、勝は横浜港の外国の外交官や商人に会い、ジャワなど外国の情報聞き準備していたとみられる」と指摘する。

で、当時は講武所砲術師範役だった。「勝海舟」(筑摩書房)を著した桃山学院大元教授の松浦玲さん(78)「京都市」は「癖のある字で、勝の手紙に間違いはない。既刊の全集ものにも未収録で、私も入手しなかった。健順丸計画は中止【網谷利一郎、写真も】

と知り合ったところの手紙で、この4カ月後に生麦事件が発生した。勝と神奈川とのゆかりが深まり、さらに研究を進めたい」と話している。